

教 育 課 程 等 の 概 要

(海洋政策科学部 海洋政策科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通授業科目	人文系	哲学	1②-2④		1		○									兼1	
		心理学A	1②-2④		1		○									兼1	
		心理学B	1②-2④		1		○									兼1	
		論理学	1②-2④		1		○									兼1	
		教育学A	1②-2④		1		○									兼1	
		教育学B	1②-2④		1		○									兼1	
		倫理学	1②-2④		1		○									兼1	
		小計(7科目)	-	0	7	0		-		0	0	0	0	0	0	兼7	-
	社会科学系	法学A	1②-2④		1		○									兼1	
		法学B	1②-2④		1		○									兼1	
		政治学A	1②-2④		1		○									兼1	
		政治学B	1②-2④		1		○									兼1	
		経済学A	1②-2④		1		○									兼1	
		経済学B	1②-2④		1		○									兼1	
		経営学	1②-2④		1		○									兼1	
		社会学	1②-2④		1		○									兼1	
		教育社会学	1②-2④		1		○									兼1	
		地理学	1②-2④		1		○									兼1	
	小計(10科目)	-	0	10	0		-		0	0	0	0	0	0	兼9	-	
	生命科学系	医学A	1②-2④		1		○									兼1	
		医学B	1②-2④		1		○									兼1	
		保健学A	1②-2④		1		○									兼1	
		保健学B	1②-2④		1		○									兼1	
		健康科学A	1②-2④		1		○									兼1	
		健康科学B	1②-2④		1		○									兼1	
		生物学A	1②-2④		1		○									兼1	
		生物学B	1②-2④		1		○									兼1	
		生物学C	1②-2④		1		○									兼1	
	小計(9科目)	-	0	9	0		-		0	0	0	0	0	0	兼8	-	
	自然科学系	惑星学D	1②-2④		1		○									兼1	
		小計(1科目)	-	0	1	0		-		0	0	0	0	0	0	兼1	-
	(1) 多文化理解	教育と人間形成	1②-2④		1		○									兼1	
		文学A	1②-2④		1		○									兼1	
		文学B	1②-2④		1		○									兼1	
		言語科学A	1②-2④		1		○									兼1	
		言語科学B	1②-2④		1		○									兼1	
芸術と文化A		1②-2④		1		○									兼1		
芸術と文化B		1②-2④		1		○									兼1		
日本史A		1②-2④		1		○									兼1		
日本史B		1②-2④		1		○									兼1		
東洋史A		1②-2④		1		○									兼1		
東洋史B		1②-2④		1		○									兼1		
アジア史A		1②-2④		1		○									兼1		
アジア史B		1②-2④		1		○									兼1		
西洋史A	1②-2④		1		○									兼1			

総合教養科目 全学共通授業科目	(4) ESD	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	1②-2④		1		○											兼1			
		ESD論(持続可能な社会づくり2)A	1②-2④		1		○												兼1		
		ESD論(持続可能な社会づくり2)B	1②-2④		1		○												兼1		
		ESD生涯学習論A	1②-2④		1		○												兼1		
		ESD生涯学習論B	1②-2④		1		○												兼1		
		ESDポランティア論	1②-2④		1		○												兼1		
		小計(6科目)		—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	0			兼3	—	
		(5) キャリア科目	企業社会論A	1②-2④		1		○												兼1	
			企業社会論B	1②-2④		1		○												兼1	
			職業と学び-キャリアデザインを考えるA	1②-2④		1		○												兼1	
			職業と学び-キャリアデザインを考えるB	1②-2④		1		○												兼1	
			社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	1②-2④		2		○												兼1	
			ボランティアと社会貢献活動A	1②-2④		1		○												兼1	
			ボランティアと社会貢献活動B	1②-2④		1		○												兼1	
			グローバルチャレンジ実習	1②-2④		1又は2				○										兼1	
		小計(8科目)		—	0	9又は10	0		—		0	0	0	0	0	0			兼4	—	
		(6) 神戸学	神戸大学史A	1②-2④		1		○												兼1	
			神戸大学史B	1②-2④		1		○												兼1	
	神戸大学の研究最前線A		1②-2④		1		○												兼1		
	神戸大学の研究最前線B		1②-2④		1		○												兼1		
	阪神・淡路大震災A		1②-2④		1		○												兼1		
	阪神・淡路大震災B		1②-2④		1		○												兼1		
	ひょうご神戸学		1②-2④		1		○												兼1		
	地域社会形成基礎論		1②-2④		1		○												兼1		
	日本酒学入門		1②-2④		1		○												兼1		
	海への誘い		1②-2④		2		○					1									
	瀬戸内海学入門		1②-2④		2		○				2			1					兼1		
	小計(11科目)		—	0	13	0		—		2	1	0	1	0				兼6	—		
	(7) データサイエンス	データサイエンス入門A	1②-2④		1		○												兼1		
		データサイエンス入門B	1②-2④		1		○												兼1		
		データサイエンス概論A	1②-2④		1		○												兼1		
		データサイエンス概論B	1②-2④		1		○												兼1		
		小計(4科目)		—	0	4	0		—		0	0	0	0	0				兼1	—	
	外国語科目 外国語第1	Academic English Communication A1	1①	0.5				○											兼1		
		Academic English Communication A2	1②	0.5				○											兼1		
		Academic English Communication B1	1③	0.5				○											兼1		
		Academic English Communication B2	1④	0.5				○											兼1		
		Academic English Communication B1 (選抜上級クラス)	1③		0.5			○											兼1		
		Academic English Communication B2 (選抜上級クラス)	1④		0.5			○											兼1		
		Academic English Literacy A1	1①	0.5				○											兼1		
		Academic English Literacy A2	1②	0.5				○											兼1		
		Academic English Literacy B1	1③	0.5				○											兼1		
Academic English Literacy B2		1④	0.5				○											兼1			
Academic English Literacy B1 (選抜上級クラス)		1③		0.5			○											兼1			
Academic English Literacy B2 (選抜上級クラス)		1④		0.5			○											兼1			
小計(12科目)			—	4	2	0		—		0	0	0	0	0				兼4	—		

全学共通授業科目	外国語科目	外国語第Ⅱ	ドイツ語初級A1	1①	0.5	○									兼1			
			ドイツ語初級A2	1②	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級B1	1①	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級B2	1②	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級A3	1③	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級A4	1④	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級B3	1③	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級B4	1④	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級SA3	1③	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級SA4	1④	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級SB3	1③	0.5	○										兼1		
			ドイツ語初級SB4	1④	0.5	○										兼1		
			フランス語初級A1	1①	0.5	○											兼1	
			フランス語初級A2	1②	0.5	○											兼1	
		フランス語初級B1	1①	0.5	○											兼1		
		フランス語初級B2	1②	0.5	○											兼1		
		フランス語初級A3	1③	0.5	○											兼1		
		フランス語初級A4	1④	0.5	○											兼1		
		フランス語初級B3	1③	0.5	○											兼1		
		フランス語初級B4	1④	0.5	○											兼1		
		フランス語初級SA3	1③	0.5	○											兼1		
		フランス語初級SA4	1④	0.5	○											兼1		
		フランス語初級SB3	1③	0.5	○											兼1		
		フランス語初級SB4	1④	0.5	○											兼1		
		中国語初級A1	1①	0.5	○											兼1		
		中国語初級A2	1②	0.5	○											兼1		
		中国語初級B1	1①	0.5	○											兼1		
		中国語初級B2	1②	0.5	○											兼1		
		中国語初級A3	1③	0.5	○											兼1		
		中国語初級A4	1④	0.5	○											兼1		
		中国語初級B3	1③	0.5	○											兼1		
		中国語初級B4	1④	0.5	○											兼1		
		中国語初級SA3	1③	0.5	○											兼1		
		中国語初級SA4	1④	0.5	○											兼1		
		中国語初級SB3	1③	0.5	○											兼1		
		中国語初級SB4	1④	0.5	○											兼1		
		ロシア語初級A1	1①	0.5	○											兼1		
		ロシア語初級A2	1②	0.5	○											兼1		
		ロシア語初級B1	1①	0.5	○											兼1		
		ロシア語初級B2	1②	0.5	○											兼1		
		ロシア語初級A3	1③	0.5	○											兼1		
		ロシア語初級A4	1④	0.5	○											兼1		
		ロシア語初級B3	1③	0.5	○											兼1		
		ロシア語初級B4	1④	0.5	○											兼1		
小計 (44科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	0	兼11	—			
科情報	情報基礎	1①	1			○			1									
	小計 (1科目)	—	1	0	0	—		0	1	0	0	0	0	—	—			
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義A	1③	1			○								兼1				
	健康・スポーツ科学講義B	1③	1			○								兼1				
	健康・スポーツ科学講義C	1③	1			○								兼1				
	健康・スポーツ科学実習基礎	1①②	1				○		1									
	健康・スポーツ科学実習1	1③	0.5				○		1									
	健康・スポーツ科学実習2	1④	0.5				○		1									
小計 (6科目)	—	0	5	0	—		0	1	0	0	0	0	兼3	—				

全学共通授業科目	共通専門基礎科目	線形代数入門1	1①		1	○				1							
		線形代数入門2	1②		1	○				1							
		線形代数1	1①	1		○					1						
		線形代数2	1②	1		○					1						
		線形代数3	1③	1		○				1							
		線形代数4	1④	1		○				1							
		微分積分入門1	1①		1	○				1							
		微分積分入門2	1②		1	○				1							
		微分積分1	1①	1		○					1						
		微分積分2	1②	1		○					1						
		微分積分3	1③	1		○				1							
		微分積分4	1④	1		○				1							
		数理統計1	1③	1		○											兼1
		数理統計2	1④	1		○											兼1
		物理学入門	1①	1		○											兼1
		力学基礎1	1①	1		○					1						
		力学基礎2	1②	1		○					1						
		電磁気学基礎1	1③	1		○					1						
		電磁気学基礎2	1④	1		○					1						
		連続体力学基礎	1③	1		○				1							
		基礎物理化学1	1①	1		○					1						
		基礎物理化学2	1②	1		○					1						
		基礎有機化学1	1③	1		○											兼1
		基礎有機化学2	1④	1		○											兼1
小計 (24科目)	—	0	20	4	—				2	4	1	0	0		兼3	—	
合計 (209科目)		—	5	175 または 176	4	—			5	8	1	0	0		兼105	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(海洋政策科学部 海洋政策科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	高度教養科目	Introduction to maritime sciences		1		○			1							
		海洋法政策概論	2①		1		○			1						
		環境法概論	2②		1		○			1						
		現代海事産業概論-1	3①		1		○								兼1	
		現代海事産業概論-2	3②		1		○								兼1	
		現代海洋政策概論-1	2③		1		○								兼1	
		現代海洋政策概論-2	2④		1		○								兼1	
	小計(7科目)	—	0	7	0	—			1	2	0	0	0	兼2	—	
	海洋リテラシー科目	海洋リテラシーI	海のサイエンス	1①	1		○			5	2		1			オムニバス
			海のテクノロジー	1①	1		○			3	3					オムニバス
			海のガバナンス	1②	1		○			1	6					オムニバス
		海洋リテラシーII	初年次セミナー	1①	1			○		1						
			海洋政策科学通論	1②	1		○			1						
			海事実務概論-1	1②	1		○			1	1					
			海事実務概論-2	1③	1		○			1	1					
	海のアクティブ・ラーニング	1①	1			○			1							
	小計(8科目)	—	8	0	0	—			12	12	0	1	0	—	—	
	海洋専門基礎科目	領域共通	応用数学1-1	2①		1		○			2					
			応用数学1-2	2②		1		○			2					
			応用数学2-1	2①		1		○		1		1				
			応用数学2-2	2②		1		○		1		1				
応用数学3-1			2③		1		○			1						
応用数学3-2			2④		1		○			1						
応用数学4-1			2③		1		○		1							
応用数学4-2			2④		1		○		1							
熱力学-1			1③		1		○		1							
熱力学-2			1④		1		○		1							
力学-1			2①		1		○			2						
力学-2			2②		1		○			2						
電磁気学-1			2③		1		○			1						
電磁気学-2			2④		1		○			1						
環境分析化学-1	2①		1		○			1								
環境分析化学-2	2②		1		○			1								
無機材料科学-1	2③		1		○			1								
無機材料科学-2	2④		1		○			1								

専門科目	領域共通	コミュニケーション英語A	1①	0.5				○			2										
		コミュニケーション英語B	1②	0.5				○			2										
		コミュニケーション英語C	1③	0.5					○		2										
		コミュニケーション英語D	1④	0.5					○		2										
		ライティング英語A	1③	0.5					○		2										
		ライティング英語B	1④	0.5					○		2										
		ライティング英語C	2①	0.5					○		2										
		ライティング英語D	2②	0.5					○		2										
	小計 (26科目)		—	4	18	0			—		3	8	1	0	0	—	—				
	海洋基礎科学領域	地球進化学-1	2①		1				○		1	1									
		地球進化学-2	2②		1				○		1	1									
		海洋学-1	2①		1				○			1									
		海洋学-2	2②		1				○			1									
		気象学-1	2③		1				○		1										
		気象学-2	2④		1				○			1									
		固体地球科学1-1	2①		1				○			1									
		固体地球科学1-2	2②		1				○			1									
		固体地球科学2-1	2③		1				○		1										
		固体地球科学2-2	2④		1				○		1										
		海洋環境基礎-1	2③		1				○		1			1							
		海洋環境基礎-2	2④		1				○		1										
		プログラミング-1	2③		1				○			2									
		プログラミング-2	2④		1				○			2									
	物理学実験	2通		2					○	1											
	化学実験	2通		2					○		1										
	材料加工・機械製図	2通		1					○		1										
小計 (17科目)		—	0	19	0			—		6	7	0	1	0	—	—					
海洋応用科学領域	流体力学-1	2①		1				○		2											
	流体力学-2	2②		1				○		2											
	流体力学-3	2③		1				○		2											
	流体力学-4	2④		1				○		2											
	浮体静力学-1	2③		1				○		1											
	浮体静力学-2	2④		1				○		1											
	材料力学-1	2①		1				○		1											
	材料力学-2	2②		1				○		1											
	工業熱力学-1	2①		1				○			1										
	工業熱力学-2	2②		1				○			1										
	工業熱力学-3	2③		1				○		1											
	工業熱力学-4	2④		1				○		1											
	電気回路-1	2①		1				○			1										
	電気回路-2	2②		1				○			1										
	電子回路-1	2③		1				○		1											
	電子回路-2	2④		1				○		1											
	制御理論-1	2③		1				○			1										
	制御理論-2	2④		1				○			1										
情報科学-1	2①		1				○		2	2											
情報科学-2	2②		1				○		2	1											
プログラミング-1	2③		1				○			2											
プログラミング-2	2④		1				○			2											

専門科目	機関学領域	材料力学-2	2②		1	○			1											
		工業熱力学-1	2①		1	○				1										
		工業熱力学-2	2②		1	○				1										
		工業熱力学-3	2③		1	○			1											
		電気回路-1	2①		1	○				1										
		電気回路-2	2②		1	○				1										
		電子回路-1	2③		1	○			1											
		制御理論-1	2③		1	○				1										
		物理学実験	2通		2			○		1										
		化学実験	2通		2			○			1									
		材料加工・機械製図	2通		1			○			1									
		小計 (16科目)	—	0	18	0		—		7	5	0	0	0	—	—				
		専門科目	海洋基礎科学領域	流体地球科学1-1	3①		1	○				1								
				流体地球科学1-2	3②		1	○				1								
				流体地球科学2-1	3①		1	○				1								
				流体地球科学2-2	3②		1	○				1								
	海域観測解析論-1			3③		1	○				1									
	海域観測解析論-2			3④		1	○				1									
	海域由来災害科学1-1			3①		1	○				1									
	海域由来災害科学1-2			3②		1	○				1									
	海域由来災害科学2-1			3③		1	○			1										
	海域由来災害科学2-2			3④		1	○			1										
	海洋環境学1-1			3①		1	○			1										
	海洋環境学1-2			3②		1	○			1										
	海洋環境学2-1			3①		1	○			1										
	海洋環境学2-2			3②		1	○			1										
	海洋環境学3-1			3③		1	○						1							
	海洋環境学3-2			3④		1	○						1							
	環境計測解析科学1-1		3①		1	○				1										
	環境計測解析科学1-2		3②		1	○			1											
	環境計測解析科学2-1		3③		1	○						1								
	環境計測解析科学2-2		3④		1	○						1								
	海洋底資源学1-1		3①		1	○			1											
	海洋底資源学1-2		3②		1	○			1											
	海洋底資源学2-1		3③		1	○											兼1			
	海洋底資源学2-2		3④		1	○											兼1			
海洋基礎科学領域	海洋エネルギー科学1-1		3①		1	○			1											
	海洋エネルギー科学1-2		3②		1	○			1	1										
	海洋エネルギー科学2-1		3③		1	○			1											
	海洋エネルギー科学2-2		3④		1	○			1			1								
	海洋エネルギー科学3-1	3③		1	○				1											
	海洋エネルギー科学3-2	3④		1	○				1											
	多変量解析1-1	3①		1	○				1											
	多変量解析1-2	3②		1	○				1											
	多変量解析2	3③		1	○			1												
	多変量解析3	3④		1	○			1												
	海域観測実習	3②		1			○		1											
	海洋基礎科学実験	3後		1			○		1											
小計 (36科目)	—	0	36	0		—		9	8	0	3	0	兼1	—						

専門科目	海洋応用科学領域	多変量解析1-1	3①		1	○				1								
		多変量解析1-2	3②		1	○				1								
		多変量解析2	3③		1	○				1								
		多変量解析3	3④		1	○				1								
		海洋応用科学実験	3前		1			○		1								
	小計 (53科目)		—	0	53	0	—			12	11	0	0	0	—	—		
	海洋ガバナンス領域	海運経済論-1	3③		1	○				1								
		海運経済論-2	3④		1	○				1								
		海運経営論-1	3①		1	○				1								
		海運経営論-2	3③		1	○				1								
		交通経済論-1	3③		1	○				1								
		交通経済論-2	3④		1	○				1								
		交通経営論-1	3①		1	○				1								
		交通経営論-2	3②		1	○				1								
		国際物流論-1	3③		1	○				1								
		国際物流論-2	3④		1	○				1								
		海運政策論-1	3①		1	○				1								
		海運政策論-2	3②		1	○				1								
		港湾政策論-1	3①		1	○				1								
		港湾政策論-2	3②		1	○				1								
		交通政策論-1	3①		1	○				1								
		交通政策論-2	3②		1	○				1								
		国際海洋法-1	3①		1	○				1								
		国際海洋法-2	3②		1	○				1								
国際社会論		3③		1	○				1									
国際政治経済論		3④		1	○				1									
防災政策論-1	3③		1	○				4	1							オムニバス		
防災政策論-2	3④		1	○				4	2							オムニバス		
エネルギー政策論-1	3③		1	○				3	1							オムニバス		
エネルギー政策論-2	3④		1	○				1	2							オムニバス		
小計 (24科目)		—	0	24	0	—			10	12	0	0	0	—	—			
航海学領域	航海航法-4	3①		1	○				1									
	航海航法-5	3②		1	○				1									
	航海航法-6	3③		1	○				1									
	航海計器-4	3①		1	○				1									
	航海計器-5	3②		1	○				1									
	航海計器-6	3③		1	○				1									
	船舶工学-1	3①		1	○				2									
	船舶工学-2	3②		1	○				2									
	海洋気象学-1	3①		1	○				1									
	海洋気象学-2	3②		1	○				1									
	航海学演習-4	3③		1		○			1									
	航海学演習-5	4④		1		○			1									
	運用学実習-1	3①		1			○		3								共同	
	運用学実習-2	3②		1			○		3								共同	
	運用学実習-3	4①		1			○		3								共同	
	運用学実習-4	4②		1			○		3								共同	
運用学演習-1	3①		1		○			4								共同		
運用学演習-2	3②		1		○			4								共同		
運用学演習-3	4①		1		○			4								共同		

専門科目	主専門科目	運用学演習-4	4②	1	○		4						共同			
		操船学-1	3①	1	○		1									
		操船学-2	3②	1	○		1									
		載貨論	3③	1	○		1									
		管理実務-1	3①	1	○		1									
		管理実務-2	3②	1	○		1									
		海事英語（船舶実務）-1	3①	1	○		1									
		海事英語（船舶実務）-2	3②	1	○		1									
		海事英語（船舶実務）-3	3③	1	○		1									
		海事英語（船舶実務）-4	4①	1	○		1									
		海事英語（船舶実務）-5	4②	1	○		1									
		海事英語（船舶実務）-6	4③	1	○		1									
		海事英語（船舶通信）	3③	1	○		1									
		海事法規-1	3③	1	○		1									
		海事法規-2	3③	1	○		1									
		海上交通法-1	3①	1	○		1									
		海上交通法-2	3②	1	○		1									
		海上交通法-3	3③	1	○		1									
		船舶衛生-1	4①	1	○							兼4	オムニバス			
		船舶衛生-2	4②	1	○							兼4	オムニバス			
		運動科学-1	3①	1	○		1									
		運動科学-2	3①	1	○		1									
		アクアティックアクティビティ演習	3②	1	○		1									
		船舶実習-1	3④	8		○										
		船舶実習-2	4④	8		○										
		小計（44科目）	—	0	58	0	—	3	8	0	0	0	兼6	—		
		専門科目	主専門科目	機関学領域	機関室資源管理-1	3①	1	○		1						
					機関室資源管理-2	3②	1	○		1						
					海洋生存技術演習	4前	1		○			1	1			
					実用海事機関英語-1	3①	1	○				1				
					実用海事機関英語-2	3②	1	○				1				
					抵抗推進工学-1	3①	1	○		1						
					抵抗推進工学-2	3②	1	○		1						
					浮体運動学-1	3①	1	○		1						
					浮体運動学-2	3②	1	○		1						
					熱機関工学-1	3①	1	○		1						
					熱機関工学-2	3②	1	○		1						
					伝熱工学-1	3①	1	○		1						
					伝熱工学-2	3②	1	○		1						
					燃烧工学-1	3③	1	○		1						
					機械設計工学-1	3③	1	○		1						
					材料加工学-1	3①	1	○		1						
					材料加工学-2	3②	1	○		1						
					材料強度学-1	3①	1	○		1						
材料強度学-2	3②				1	○		1								
電気機器-1	3①				1	○		1								
電気機器-2	3②	1	○		1											

専門科目	主専門科目	機 関 学 領 域	エネルギープラント管理演習-1	3前		1			○			1						
			エネルギープラント管理演習-2	4前		2			○					1				
			エネルギープラント保全論-1	3①		1			○					1				
			エネルギープラント保全論-2	3②		1			○					1				
			洋上プラント安全論-1	3①		1			○					1				
			洋上プラント安全論-2	3②		1			○					1				
			海事法規-1	3③		1			○					1				
			海事法規-2	3③		1			○					1				
			船舶衛生-1	4①		1			○								兼4	オムニバス
			船舶衛生-2	4②		1			○								兼4	オムニバス
			運動科学-1	3①		1			○					1				
			運動科学-2	3①		1			○					1				
			機関学実験	3①～③		1					○			1				
			船舶実習-1	3④		8					○							
	船舶実習-2	4④		8					○									
	小計 (36科目)	—	0	51	0				—			4	7	2	1	0	兼6	—
	海洋総合科目	海のインターンシップ	3②		1				○			1						
		海のBDL	4前	2					○			28	35	3	4			
		特別研究A	4通		8				○			28	35	3	4			
		特別研究B	4①～③		6				○			28	35	3	4			
海技士総合ゼミ		4①～③		6				○			2	6	0	0				
小計 (5科目)	—	2	21	0			—			28	35	3	4	0				
合計 (339科目)			—	16	374	0		—			28	36	3	4	0	兼4	—	
学位又は 称号	学士 (海洋政策科学), 学士 (商船学)		学位又は学科の分野				経済学関係、理学関係、工学関係											
卒業要件及び履修方法										授業期間等								
(卒業要件)										1 学年の学期区分				4 期				
4年以上在学し、全学共通授業科目から25単位以上、高度教養科目から4単位以上、専門科目から66単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:52単位(年間))										1 学期の授業期間				8 週				
(履修要件)										1 時限の授業時間				90 分				
(1)全学共通授業科目 (全領域共通)																		
①基礎教養科目 4単位以上																		
②総合教養科目 4単位以上																		
③外国語科目 8単位以上																		
・外国語第Ⅰ科目から必修4単位修得のこと。ただしAcademic English Communication B1,B2, Academic English Literacy B1,B2はAcademic English Communication B1(選抜上級クラス),B2(選抜上級クラス), Academic English Literacy B1(選抜上級クラス),B2(選抜上級クラス)で読み替えることができる。																		
・外国語第Ⅱ科目ドイツ語、フランス語、中国語及びロシア語のうちから1つ選択し、4単位修得のこと。ただし、ドイツ語、フランス語、中国語の初級A3,初級A4,初級B3,初級B4は初級SA3,初級SA4,初級SB3,初級SB4で読み替えることができる。																		
④情報科目 必修1単位																		
⑤共通専門基礎科目 8単位以上																		
ただし、線形代数1, 2, 3, 4, 微分積分1, 2, 3, 4, 数理統計1, 2, 力学基礎1, 2, 電磁気学基礎1, 2, 連続体力学基礎, 基礎物理化学1, 2, 基礎有機化学1, 2, から8単位以上修得のこと。																		
(2)高度教養科目 4単位以上 (全領域共通)																		

(3) 専門科目

① 海洋リテラシー科目 必修8単位（全領域共通）

② 海洋専門基礎科目 20単位以上

【海洋基礎科学領域】

海洋基礎科学領域を主専門領域とする場合は、当該領域の海洋専門基礎科目群（必修:物理学実験(2単位), 化学実験(2単位), 材料加工・機械製図(1単位)）または領域共通科目の科目群から20単位以上修得のこと。

【海洋応用科学領域】

海洋応用科学領域を主専門領域とする場合は、当該領域の海洋専門基礎科目群（必修:物理学実験(2単位), 化学実験(2単位), 材料加工・機械製図(1単位)）または領域共通科目の科目群から20単位以上修得のこと。

【海洋ガバナンス領域】

海洋ガバナンス領域を主専門領域とする場合は、当該領域の海洋専門基礎科目群または領域共通科目の科目群から20単位以上修得のこと。

【航海学領域】

航海学領域を主専門領域とする場合は、当該領域の海洋専門基礎科目群（必修10単位:航海航法-1, 2, 3, 航海計器-1, 2, 3, 航海学演習-1, 2, 3, 船舶運航概論（各1単位））または領域共通科目の科目群から選択のこと。

【機関学領域】

機関学領域を主専門領域とする場合は、当該領域の海洋専門基礎科目群（必修16単位:流体力学-1, 2, 材料力学-1, 2, 工業熱力学-1, 2, 3, 電気回路-1, 2, 電子回路-1, 制御理論-1, 材料加工・機械製図（各1単位）, 物理学実験(2単位), 化学実験（2単位））または領域共通科目の科目群から選択のこと。

③ 主専門科目 28単位以上

【海洋基礎科学領域】

海洋基礎科学領域を主専門領域とする場合は、当該領域の主専門科目群から22単位以上（必修:海域観測実習(1単位), 海洋基礎科学実験(1単位)）、海洋ガバナンス領域の海洋専門基礎科目または主専門科目の科目群から6単位以上修得のこと。

【海洋応用科学領域】

海洋応用科学領域を主専門領域とする場合は、当該領域の主専門科目群から22単位以上（必修:海洋応用科学実験・演習(1単位)）、海洋ガバナンス領域の海洋専門基礎科目または主専門科目の科目群から6単位以上修得のこと。

【海洋ガバナンス領域】

海洋ガバナンス領域を主専門領域とする場合は、当該領域の主専門科目群から22単位以上、海洋ガバナンス領域以外の領域の海洋専門基礎科目の科目群または海洋専門ガバナンス領域以外の主専門科目の科目群から6単位以上修得のこと。ただし、海洋専門基礎科目の領域共通科目は除く。

【航海学領域】

航海学領域を主専門領域とする場合は、当該領域の主専門科目群から必修53単位、海洋ガバナンス領域の海洋専門基礎科目または主専門科目の科目群から6単位以上修得のこと。ただし、海洋専門基礎科目の領域共通科目は除く。

【機関学領域】

機関学領域を主専門領域とする場合は、当該領域の主専門科目群から必修44単位以上、海洋ガバナンス領域の海洋専門基礎科目または主専門科目の科目群から6単位以上修得のこと。ただし、海洋専門基礎科目の領域共通科目は除く。

④ 海洋総合科目

【海洋基礎科学領域、海洋応用科学領域、海洋ガバナンス領域】

必修:海のBDL(2単位)及び特別研究A(8単位) 10単位以上修得のこと。

【航海学領域、機関学領域】

必修:海のBDL(2単位)及び、特別研究Bまたは海技士総合ゼミのいずれかを選択必修とし、合計8単位以上修得のこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(海洋政策科学部 海洋政策科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通授業科目	基礎教養科目 哲学	哲学的思考とは何か？私たちが子供の頃、「僕が僕で、君でないのはなぜ？」「時の始まりはいつ？」「宇宙の果てはどこ？」等々といった解決のつかない疑問を抱いたことがないだろうか。当時はそれが哲学的な大問題だとも知らずに、そうした疑問は考えても仕方がないもの、無意味なものとして放置され、今は疑問を抱いていたことも忘れてしまっているかもしれない。しかし、こうした問題を考察することは本当に無意味なのだろうか。この講義ではこれら哲学の諸問題に対して、哲学的に思考するとはどのようなことかを具体的に提示することで、その思考パターンを理解し、その思考態度を身につけます。	
全学共通授業科目	基礎教養科目 心理学A	心理学Aでは実験心理学を扱う。特に知覚心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学、感情心理学など実験という手法を用いて心のありかたを研究している領域について学ぶ。この講義では心理学を初めて学ぶ学生を対象に、実験科学としての現代心理学のあり方を感覚・知覚、認知、社会という領域から代表的なトピックスを選んで解説する。	
全学共通授業科目	基礎教養科目 心理学B	誕生から死に至るまでの人間発達の特徴を発達心理学の観点から理解し、その発達を支援する働きかけを教育心理学や臨床心理学の観点から学習する。①人間発達がどのように生じるのかというメカニズムと、各発達段階である胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、中年期、老年期の特徴と意義を理解する。あわせて、発達研究に用いられる実験、観察、調査、事例研究などの研究方法を理解し、その研究方法によりどのようにして知見が得られたかを知る。②発達の中で生じるつまずき、不適応、精神病理、障害などについて理解を深め、どのような支援があるかを知る。生涯発達の視点から、主に自己の発達という側面から各発達段階について概説する。	
全学共通授業科目	基礎教養科目 論理学	講義と課題を通じて、論証の基本的形式や演繹や帰納などといった種々の推論形式を学ぶことで、論理的にものごとを考えるための力を養う。正しい推論や論証についての基本的な理解を得ること、与えられた主張の論理的内容を正確に把握できるようになること、それについての確かな批判ができるようになること、などがこの授業の目標である。	
全学共通授業科目	基礎教養科目 教育学A	本科目では、科学教育、国語教育、学習科学、家族関係学、教育方法学、日本教育史、幼児教育、社会認識教育、教育法制度、教育経営などの観点から教育学に関する基本的な内容を講述する。教育学に関する基礎的な知見を獲得することを目標とする。	
全学共通授業科目	基礎教養科目 教育学B	本授業では、現代の教育問題の本質について国際比較の観点から映像教材やディスカッションを通じて検証する。これにより、教育問題の多面性と複雑性を認識し、それぞれの立場がどのような論理に基づいているかを理解する。対象としては初等教育、中等教育、高等教育などの公教育を扱う。日本と諸外国における教育問題についての基礎的な知識を獲得する。教育問題に関する当事者としての批判的思考力を養う。こうした基礎的な知識や批判的思考力は、社会生活を送る上で、どんな職業に就く場合でも必要となるものです。	
全学共通授業科目	基礎教養科目 倫理学	「倫理学」とは、古典ギリシア語のエートス（人柄）に由来する英語ethicsに相当する日本語であり、哲学の一部門を成す学問である。ただ、古来より現代に至るまで行われてきた倫理的な営みは、それが人間の生について学問的に探究するものであるという共通点を別にすれば、極めて多様な広がりを持っている。本科目では、そのような倫理学が、どのような問題をどのように考察し、そしてどのような立場がそこに見出されるのかについて、受講者に体感してもらうことを目指す。	

全学共通授業科目	基礎教養科目	法学A	法学の基礎を、主として家族に関する法律問題を素材にして、理解することをテーマとします。家族および未成年に関する簡単な事例問題について、事実には、家族法または未成年者に関する法を適用して適切な解決を導くことができる力を備えることを目標とします。	
全学共通授業科目	基礎教養科目	法学B	本授業では、国家間関係を規律するルールとしての国際法について学ぶ。本授業では、国際社会で起きている様々な出来事を、法の観点から分析できるようになることを目指す。	
全学共通授業科目	基礎教養科目	政治学A	政治学を専攻しない学生に対して、政治学の導入的講義を行う。網羅的でなく個別の政治分野に焦点を当てて政治の世界を理解する手がかりとさせることもある。政治学を専攻しない学生にとっても教養として求められる、学問としての政治学の入り口に立つための最低限の知識を得ることが目標である。近現代の政治思想史を学ぶ。人間にとって政治とは何なのか、原理的・論理的に考える。	
全学共通授業科目	基礎教養科目	政治学B	エネルギー調達は、目立ちにくい、全ての人々にとって日々の生活の根幹に関わる重大な問題である。また、意外かもしれないが、石油は単独の商品として世界最大級の年間取引額に達する。本講義では、日本政府によるエネルギー政策の課題に関して情報収集したり、批判的に考察したりする考え方を解説する。そのために、最新のエネルギー政策論も導入する。	
全学共通授業科目	基礎教養科目	経済学A	経済学Aでは、消費者や企業の活動、市場の機能およびその限界について、ミクロ経済学の基礎を解説する。経済のしくみを理解するために必要な基本的概念や分析枠組みを学び、さまざまな経済問題や経済政策について考えるためのミクロ経済学的基礎を習得することを目標とする。教科書に基づいて、経済学のミクロ経済学分野について講義を行います。	
全学共通授業科目	基礎教養科目	経済学B	経済学Bでは、経済全体の活動水準の決定や、景気変動、失業、経済成長などについて、マクロ経済学の基礎を解説する。経済のしくみを理解するために必要な基本的概念や分析枠組みを学び、さまざまな経済問題や経済政策について考えるためのマクロ経済学的基礎を習得することを目標とする。授業では指定教科書を用いて経済学のマクロ経済学分野の基礎を解説します。	
全学共通授業科目	基礎教養科目	経営学	経営学を専攻しない学部生を対象に、「企業とは何か」「経営とは何か」「経営学とはどのような学問か」等について、現実に行っている事例を豊富に取り入れ、基礎知識のない人にもわかりやすく授業を進めます。履修生が社会人になる時に必要になる、企業・経営・経営学についての基礎知識を身につけることを目標とします。	
全学共通授業科目	基礎教養科目	社会学	具体的な内容は担当する教員によって異なるが、社会学という学問について、その学説と理論の歴史と現状、ならびに経験的研究の成果について、そのつど具体的な主題やトピックを中心的にとりあげつつ、概説的な授業を行う。現代社会における諸問題を批判的に解釈・分析するための社会学的な概念や方法論を身につける。身近な生活の中から社会とは何かを考える。	
全学共通授業科目	基礎教養科目	教育社会学	教育の在り方はいつの時代にも大きな議論を巻き起こしてきました。それは教育という営みが単なる技術的な問題ではなく、次世代の社会の進路に関わる政治的・イデオロギー的な側面を含むからです。言い換えれば教育は、社会にある諸資源の分配に関わる問題であり、それ故に教育は自己完結的な領域ではなく、社会の諸システムと否応なく結びつくわけです。この授業では、日本および米英等諸外国の教育改革の動向を取り上げることを通じて、この問題をわかりやすく解説していきます。教育を社会科学の目で捉えるとはどのようなことなのか、情緒的ではなく学術的に教育の批判的検討をするとはどういうことなのか、これについて理解していただくことです。主たる力点は日本の教育改革の動向を諸外国の教育改革の動向と比較することにおきます。	

全学共通授業科目	基礎教養科目	地理学	人間と社会（環境）さまざまな地理的事象を取り上げ、人間と社会、環境の特徴や互いの関係を、「地理学」の観点から考える。地理学が考察の対象とするのは、地表面に展開する人文・自然のさまざまな現象です。神戸をはじめとした都市は私たちに身近な場所ですが、歴史を遡ると、人間は都市への集住によって新たに生じた問題に直面してきました。本講義では、特に都市をめぐる環境を軸に議論を進めます。
全学共通授業科目	基礎教養科目	医学A	「健康と疾病Ⅰ」をテーマに学生あるいは社会人として健康・医学に関する基礎知識を習得する。肺がん、肝移植の現状、消化管のがん、ストレスなど異なる健康テーマに基づいて、多角的に健康と病気についての基礎知識を勉強する。
全学共通授業科目	基礎教養科目	医学B	「健康と疾病Ⅰ」に引き続き、「健康と疾病Ⅱ」をテーマに学生・社会人として必要な健康・医学に関する基礎知識を学ぶ。脳のしくみ、麻酔について、放射線治療など異なる医学テーマに基づいて、多角的に健康と病気に関する基礎知識を習得する。
全学共通授業科目	基礎教養科目	保健学A	日本是世界でもトップレベルの長寿国ですが、今日のような長寿社会がもたらされたのは、病気の子防対策や検診などを初めとする保健学の進歩のおかげです。一方で、新しい感染症の出現や人口構成の変化に伴う病気の変化など、さまざまな新しい課題が次々と生じています。本講義では感染症、細胞の機能、メンタルヘルス、長寿社会と高齢者の保健、生活リズムと保健などについて講義します。健康で文化的な生活を送るために必要な保健学の知識を習得することを目指します。なお、保健学Bと合わせて受講することにより、より広い保健学の知識を身につけることが可能になります。
全学共通授業科目	基礎教養科目	保健学B	近年の医療の進歩により、かつて治療が難しく死に至ることが当然であった、がんのような悪性の病気であっても、病状をコントロールして生存できるようになってきました。しかし、良い治療成績が得られるためには、早期診断と早期治療、そして健康管理が欠かせません。本授業では、重要と考えられるがん、生活習慣病、女性の健康、メンタルヘルス、神経機能、に焦点を絞り、その基礎知識の習得を目指します。
全学共通授業科目	基礎教養科目	健康科学A	本講義のテーマは、「健康とは？」を考えることです。私たちは毎日、食べたり、運動したり、物を見聞きし考えたり、眠ったりしています。これらは当たり前のことのようにですが、全ての身体の機能が順調に機能して初めて健康であると言えます。本講義では、学生が健康な生活を可能とする人体のさまざまな機能について、その構造や身近な病気とも関連づけながら学ぶことで、健康な生活を過ごすために有用な健康科学の知識を学修することを目指します。
全学共通授業科目	基礎教養科目	健康科学B	病気や怪我になって初めて健康のありがたさが分かりますように、健康であればあるほど健康については関心が薄くなりがちです。本講義では、健康管理の対象となる心と身体について、それらの機能とも関連づけながら学びます。自分自身の健康への興味を高め、健康管理ができるようになることを目標とします。
全学共通授業科目	基礎教養科目	生物学A	地球上の生物はすべて核酸を遺伝子として受けつぎながら、そこから必要な遺伝情報を取り出して核酸、タンパク質、炭水化物、脂質などのさまざまな機能分子を合成し、これらを巧妙に制御することで生命を維持し、増殖・進化してきた。すべての生命活動は細胞を単位として行われており、また一部の生物群は多細胞体制を進化させ組織分化を行うことで、1つの細胞では不可能な多様な機能を実現してきた。本講義では、これらの、生物に共通する生命の基本的な仕組みを学ぶ。生命現象の基礎である、細胞を単位とした遺伝および代謝や組織分化の基本メカニズムを理解する。生物の根本となる生命活動に必須な遺伝子・タンパク質の機能発現、エネルギー生産・獲得の基本的な機構を講述する。さらに生物科学の先端技術、特に植物科学に注目し、紹介することで、生活に関わり深い生物学を学ぶ。

全学共通授業科目	基礎教養科目	生物学B	全ての生物の生命活動は細胞を単位として行われているが、その生活の単位である個体は、バクテリアのように単細胞のものから陸上植物や哺乳類のように多細胞で複雑に組織分化したもので見られ、さらには社会性昆虫のように個体単位で機能分化した生物まで多様である。本講義では、それぞれの生物がどのように自らの体を作り上げ、多様な生育環境に应答・適応しながら生存しているかについて、基本的な仕組みを学ぶ。さまざまな体制の生物が、個体レベルで多様な生育環境に应答、適応するための基本メカニズムとその多様さを理解する。
全学共通授業科目	基礎教養科目	生物学C	人間の体がかもつ生命維持の基本メカニズムと、その正常な機能発現を妨げる要因の多様性およびさまざまな疾患との関係について理解する。主にがんの発症機構を例に取り、遺伝情報や生体機能の恒常性を維持するための基本的な仕組みに関わる以下の内容について講義を行う。
全学共通授業科目	基礎教養科目	惑星学D	「惑星の起源と進化」をテーマに、宇宙における地球を含む諸天体の形成ならびに進化について基本的なことがらを理解することを目標とする。(1)宇宙の誕生から、太陽系の生成・進化の歴史をたどる。(2)惑星系の姿を解明してきた観測と探査の歴史を辿り、特に太陽系小天体の現在の姿とそこに残された過去の進化の過程を概観する。
全学共通授業科目	総合教養科目	教育と人間形成	本授業では大学生と社会との関係性について古今東西の映像作品を鑑賞することにより、大学生としてどう生きるか、どう学ぶかという点について一定の知見を得ることを目標とします。
全学共通授業科目	総合教養科目	文学A	ユートピア/ディストピアがいかにか表象されてきたのか、中国文化圏を中心にさまざまな文献を読む。架空の理想社会に関する様々な思索の読解を通じ、現代社会への批判的視野を獲得する。
全学共通授業科目	総合教養科目	文学B	テーマは「『古典』からみる日本の思想」である。私たちは『万葉集』『源氏物語』『平家物語』などを日本の古典と捉え、それらには日本人のものの感じ方の特徴が示されていると自然に判断している。本講義を受講することで、履修者は、このような常識を疑い、作品に即して学ぶとともに、近代日本の歴史的背景を知ることによって、ある作品が「古典」となる理由を理解することができるようになることを目標とする。
全学共通授業科目	総合教養科目	言語科学A	「現代日本語の条件文、原因理由文、逆接文」をテーマに、ことばについて反省的に考える力をつける。〈概要〉現代日本語の条件文、原因理由文、逆接文として「たら」「なら」「から」「けれども」「のに」等を取り上げ、検討する。
全学共通授業科目	総合教養科目	言語科学B	In this class, you will learn about several topics in the academic field of "linguistics" - the scientific study of language. The specific focus for this quarter is Applied Linguistics - that is, the sub-fields of Linguistics where we apply a basic understanding of how language is structured to solve various real-life problems. この授業では、「言語学」の学術的なフィールドにおけるいくつかのトピックを学ぶが、特に適用言語学に焦点をあてる。すなわち、さまざまな現実生活における課題を解決するために、言語が構造化されているのかについて、基本的な理解を適用する。
全学共通授業科目	総合教養科目	芸術と文化A	西洋美術史(絵画史)全体を俯瞰しながらも、特に近代以降の絵画史に焦点をあてる。近代以降の絵画芸術がかつてのテーマ「宗教」や「物語」すら必要なくなり、さらには「対象物(モチーフ)」まで拒否し現代へと至る道程。それは絵画という「窓」から平面的な「壁」への抽象化としての移行にも例えられる。そうした近現代絵画史の流れを欧米を中心とした絵画作品の画像や映像、そして実際の美術館見学なども実施しする中で深く理解することを目指す。

全学共通授業科目	総合教養科目	芸術と文化B	日本の文化の根底にある暦や季節感を理解し、若水汲み、七草粥、五節句、修正会、修二会、田遊び、流し雛、曲水、ハマオリ、彼岸、更衣、灌仏会、やすらい花、端午の節句、囃子田、虫送り、祇園祭り、夏越祓え、七夕、盆、盆踊り、念仏踊り、エイサー、アンガマ、十五夜、放生会、アラセツ、重陽、更衣、鎮魂祭、新嘗祭、大嘗祭、若宮おん祭、大祓え、追儺、節分など季節ごとに行われる祭りや芸能について理解を深める。	
全学共通授業科目	総合教養科目	日本史A	過去の学びを通じて他者への想像力を養うと同時に、歴史的思考を通じて自分の立脚点を捉える見方を獲得する。また聞きながらメモを取り、短文のコメントを書く能力の習得もめざす。主に19C半ばから世紀転換期を対象にトピックを通じて、過去の社会編成のあり方を知ることで現在を考える視座を養う。	
全学共通授業科目	総合教養科目	日本史B	過去という他者への想像力を養うと同時に、歴史的思考を通じて自分の立脚点を捉える見方を獲得する。また聞きながらメモを取り、短文を書く能力の習得もめざす。19世紀の世紀転換期から第一次世界大戦までの社会的国家的トピックを今日の歴史学研究の手法によって紹介するとともに、過去の文脈を通じて出来事を読み、その語られ方を考える視座を養う。	
全学共通授業科目	総合教養科目	東洋史A	東アジア仏教史に関する基礎知識を身につける。仏教は、インドで誕生し、アジア各地に伝播して各地の社会で変容してきた。この講義では、仏教が東アジア地域に影響を与えたり、共通に生じた現象について具体的な文献に即して論じることで、東アジア史の一つの側面を学ぶ。	
全学共通授業科目	総合教養科目	東洋史B	イスラームという宗教は、西暦7世紀にアラビア半島で発生した後、仏教やキリスト教と同じように、色々な地域で様々な人々によって担われてきた多様な現象です。そして多くの場合、イスラームとムスリム社会は、在来の文化を排除するよりは、むしろこれを巧みに吸収することによって発展してきました。イスラームという宗教について、現代の日本社会ですでにいくつかのイメージが築かれています。しかしそうしたイメージは、歴史上に現れた様々な形のイスラームのうちのごく一面でしかありません。むしろそうしたイメージが多かれ少なかれ、何らかの歴史的な背景に根ざしていることを、この授業では示していきます。概説的な情報は必要最小限に留め、イスラームとムスリム社会がたどった歴史の一端を、いくつかの事例に則して解説していきます。	
全学共通授業科目	総合教養科目	アジア史A	東南アジアにおける人の移動（前近代篇） 東南アジアにおける中国系移民（華僑・華人）を事例に、人の移動と東南アジアの前近代史や漢民族の伝統的な社会結合などのダイナミズムについての基本的な理解を得ることを目標とする。	
全学共通授業科目	総合教養科目	アジア史B	東南アジアにおける人の移動（近現代篇） 東南アジアにおける中国系移民（華僑・華人）を事例に、植民地支配と移民の大量流入や東南アジアの複合社会、東南アジアのクレオール華人などについての基本的な理解を得ることを目標とする。	
全学共通授業科目	総合教養科目	西洋史A	19世紀から20世紀前半のグアテマラにおける国民国家形成と先住民民族問題の関係に着目しつつ、旧ヨーロッパ植民地の近代化における問題点について考察することをテーマとする。中米の小国グアテマラにおいて、スペイン植民地時代の経験と独立後のヨーロッパ諸国をモデルとする近代化政策がその国民国家形成にいかなる影響を与えたのかについて考察する。	
全学共通授業科目	総合教養科目	西洋史B	19世紀中頃～20世紀末のパナマ運河をめぐる中米諸国（特にニカラグアとパナマ）とアメリカ合衆国の歴史的関係を、主に中米側のナショナリズムの視点から分析・検討することをテーマとする。受講生が、旧植民地側の視点から西洋近代史を建設的批判精神をもって論じるための具体的な知識（特に植民地主義とナショナリズムの関係に関する知識）と分析視角を身につける。	

全学共通授業科目	総合教養科目	考古学A	<p>考古学は、日本では一般に人文系の歴史学の一分野として位置づけられているが、世界では、それぞれの地域の歴史的な背景を反映して、ひろく過去の物質的痕跡から人類の行為を検証する科学として、広義の人類学と認識される地域も多い。また、メディアがとりあげる内容から、野外の探検や発掘調査により新発見を競う学問、というイメージも強いが、過去を復元する方法や理論についての論争は長い蓄積があり、体系的な思索の学という一面も有している。そして、遺跡や遺物の調査に際しての職人的な技量と経験が求められる「古くさく」「たこつぼ的な」側面と、古環境の復元、人骨や動植物遺体の分析、文化財の保存処理、年代や材質の理化学的検討、情報の処理や解析・・・等、自然科学も含めた多分野の理解や協業が不可欠な、総合科学としての側面が共存している。</p> <p>本講義は、以上のような考古学の学問的特質や方法論の紹介を冒頭におこない、理解する。その後、この考古学Aでは、人類史で文字史料が存在しない旧石器時代・縄文時代に関する研究事例をおもにとりあげ、さきに理解した特質や方法論が、研究の現場でいかに実践されているかを学ぶ。これらを通じて、考古学とはどんな学問か、が理解できるようになる。</p>	
全学共通授業科目	総合教養科目	考古学B	<p>考古学は、日本では一般に人文系の歴史学の一分野として位置づけられているが、世界では、それぞれの地域の歴史的な背景を反映して、ひろく過去の物質的痕跡から人類の行為を検証する科学として、広義の人類学と認識される地域も多い。また、メディアがとりあげる内容から、野外の探検や発掘調査により新発見を競う学問、というイメージも強いが、過去を復元する方法や理論についての論争は長い蓄積があり、体系的な思索の学という一面も有している。そして、遺跡や遺物の調査に際しての職人的な技量と経験が求められる「古くさく」「たこつぼ的な」側面と、古環境の復元、人骨や動植物遺体の分析、文化財の保存処理、年代や材質の理化学的検討、情報の処理や解析・・・等、自然科学も含めた多くの分野の理解や協業が不可欠な、総合科学としての側面が共存している。</p> <p>本講義は、以上のような考古学の学問的特質や方法論の紹介を冒頭におこない、理解する。その後、この考古学Bでは、おもに日本列島における弥生時代以降に関する研究事例をとりあげながら、さきに理解した特質や方法論が、研究の現場でいかに実践されているかを学ぶ。これらを通じて、考古学とはどんな学問か、が理解できるようになる。</p>	
全学共通授業科目	総合教養科目	芸術史A	ヨーロッパにおける建築の近代化過程、すなわち古代ギリシア・ローマ以来の西洋建築の伝統を大まかに捉えたうえで、西洋近代建築史を検討する際の基本的な概念や19世紀末から20世紀初頭の世紀転換期は産業・経済の発展を背景にした大衆文化興隆の時代であると同時に、戦争と革命の時代でもあった。激動する社会のなかで模索された「過去の切断」と「未来の理想」の姿を検討する。	
全学共通授業科目	総合教養科目	芸術史B	本講義では色彩をめぐるさまざまな解釈を踏まえた上で、西洋の芸術事象（絵画やファッション）における色彩の多様なあり方、色彩の象徴性、色彩と文化の関わりについて考察する。	
全学共通授業科目	総合教養科目	美術史A	美術史学の基礎を通して、西洋文化の根幹であるキリスト教と美術、さらに両者の関係について理解する。美術作品（イメージ）は、文字資料には表れない思想や社会・歴史が表象された視覚資料である。美術だけでなく、西洋文化全体の基礎をなすキリスト教についてしっかり学習し、イメージと信仰、視覚表現と思想との関係について理解する。対象とする美術作品は西洋の古代から現代美術、日本美術におよぶ。それによって美術史学という学問の基礎を学ぶ。	
全学共通授業科目	総合教養科目	美術史B	日本古代中世絵画史概説 奈良時代から平安時代に至る日本絵画の代表的な作品を取り上げ、日本の古代から中世の絵画史の流れを理解する。	
全学共通授業科目	総合教養科目	科学史A	科学の歴史とは何か、そして大枠での「近代」について、近代社会を3つのキーとなる枠組み（政治と意思決定、経済と生産、文化・宗教と科学）から、考える。次に、ガリレオが世界の歴史に持った意味を、3つのRという観点から概観する。さらに、山本義隆の著作に触れ、科学哲学的な考察を深311という喫緊の現代的課題を、歴史的に考察し、科学史を現代的な課題として、大きく構想するために、山本の最新刊も併せて読む。	

全学共通授業科目	総合教養科目	科学史B	科学史と近代の枠組みについて、近代社会を3つのキーとなる枠組み（政治と意思決定、経済と生産、文化・宗教と科学）、およびガリレオが世界の歴史に持った意味を、3つのRという観点から概観したことを基礎にしている。）ここでは、日本の科学史・技術史を、イノベーションという視点で考える。そのために、『カムイ伝講義』から、ヨーロッパのガリレオと、日本の「カムイ」を対比する巨視的な視点で、歴史を考察する。そしてイノベーション論の基礎、シュンペーターの「新結合」などについて、考察する。さらに明治から150年間の日本の科学技術について、山本義隆の著作を参照にして、考察を進めたい。	
全学共通授業科目	総合教養科目	社会思想史	冷戦構造の崩壊した20世紀末以降、グローバル化と情報テクノロジーの革新が加速的に進むにつれ、人びとの活動は国境を越えて拡がり、コミュニケーションのありようも急速な勢いで変化し続けています。これまで自明とされてきた近代的な制度や思考の枠組みは根底から揺らいでおり、従来の常識から脱却して新しい仕組みを早急に整えることが喫緊の課題となっているともいえます。とはいえ、そうした課題に取り組むためには、これまで私たちがどのような社会の中で生きてきたのか、それはいかなる思考の枠組みに規定されていたのか、そこにはどのような問題が潜んでいたのか、こうした問いにまずは真剣に向き合う必要があるでしょう。つまり、現在を形づくってきた近代のさまざまな思考の枠組みを精査することなしには、未来への展望もまた開かれることはないだろう、ということです。この授業では、〈自己への問い〉と〈社会への問い〉を軸に近代社会思想の歴史を振り返りながら、来たるべき社会のありかたについて多少なりとも思考を巡らせてみたいと思います。	
全学共通授業科目	総合教養科目	文化人類学	地球上に住むひとびとが営む文化のさまざまな側面をアフリカ民族誌を手がかりとして考える。今年度は近刊の教科書の内容を検討することで幅広い知見を涵養することを目指す。アフリカ社会という異文化および社会を支える論理を検討し、彼らにとって何が「あたりまえ」か、われわれにとって「あたりまえ」でないことは何か、を検討するのがこの講義の目的である。地球上のくらしの多様性を民族誌を通して具体的事実として知ることとともに、比較の観点からそれらの地域の構造を理解する。そのことにより受講者は、世界の国ぐにに住むひとびとに対する相対的視点を涵養し、国際あるいは多文化共生の地球時代に生きる知的構えを養うことができる。	
全学共通授業科目	総合教養科目	現代社会論A	現代社会における多様な事象について、社会学という「物の見方」を学び、社会学の基本的な視座の習得し、社会現象をとらえるために社会学的な観点から分析・考察を行う。	
全学共通授業科目	総合教養科目	現代社会論B	日本是世界一の長寿国であり、高齢化の進んだ国である。その日本に住むものとして、その現状を知ることが必要である。さらに高齢化が現実社会にどういった問題をもたらしているのかを理解する。	
全学共通授業科目	総合教養科目	越境する文化	世界史におけるユダヤ人が置かれた社会・政治的状況の多角的な把握を通して、マイノリティをめぐる諸問題を考察するための批判的感性を養う。①前提を疑うこと——小話に見るユダヤ精神②『屋根の上のバイオリン弾き』の世界③ユダヤ教とは何か？④ユダヤ・ディアスポラの足跡⑤東欧ユダヤ文化の源流⑥啓蒙の弁証法：「ユダヤ人解放」の光と影⑦ドイツ・ユダヤ関係の屈折⑧ロシア・ユダヤ人の展開	
全学共通授業科目	総合教養科目	生活環境と技術	基本的な知識として繊維製品（繊維、糸、布）の材料の性能とさまざまな繊維製品に関わる技術、衣の文化について学ぶ。また、人が衣生活を送ることによって環境に与える影響について考える。	

全学共通授業科目	総合教養科目	かたの文化学	本講義では、わたしたちのふるまいが環境と探りあてているさまざまな価値や意味について、文献ならびに観察・採集を通して議論する。その際、ヒトのふるまいが周囲の環境に生み出すさまざまな配置や痕跡、身体などの自然物の構造、デザイン・建築などの人工物など、この環境で変化あるいは持続しつつ場を占めているものの具体例を考慮する。身のまわりに在るさまざまな「かたち」を考察することにより、文化と自然の分断を越えた広い視野を身につけることを目標とする。	
全学共通授業科目	総合教養科目	科学技術と倫理	科学技術、とくに医療技術の発展によりどのような問題が起こっているのかをまずは正確に把握し、その上で、自分はその問題をどのように考えるか独自の意見をもてるようにする。それと同時に、自分と異なる立場の主張やその根拠を理解し、ときに自分の主張を離れて、様々な異なる視点からも問題を見られるようになる。およそ次のようなトピックと順番で進める予定です。	
全学共通授業科目	総合教養科目	現代物理学が描く世界	この授業では、現代物理学の柱の1つである相対性理論について学び、我々の住む宇宙がどのような物理法則にしたがっているかを概観する。学生の到達目標は、テレビや新聞で報道される素粒子や宇宙に関するニュースを読み解くための基礎知識を身につけ、素粒子や宇宙に関する未解明の謎や疑問に関して述べるようになることである。	
全学共通授業科目	総合教養科目	身近な物理法則	自然界は優れた特性をもつ多種多様な無機、有機物質から成っており、人間はこれら物質の性質（物性）を利用して快適な生活を営んでいる。この講義のテーマは、現代科学が解明したこれらの物性の発現する機構を平易に物理法則から説明することで、物理法則とその物性への応用の理解を目標とする。	
全学共通授業科目	総合教養科目	かたの自然学A	身のまわりに存在する様々なカタチの特徴や背景について理解を深める。カタチに対する知識を身につけるとともに、それを表現する技術を身につける。	
全学共通授業科目	総合教養科目	かたの自然学B	身のまわりに存在する様々なカタチの特徴や背景について理解を深めるため、カタチに対する知識を身につけるとともに、それを表現する技術を身につける。	
全学共通授業科目	総合教養科目	ものづくりと科学技術A	阪神・淡路大震災や東日本大震災は、あらためて日本の都市および社会が災害に弱い体質をもっていること、また地震などの災害に対してその被害防止に努めることの大切さを教えてくれた。地震や強風への対応と生活環境の安全について、建築の立場から講述するとともに、都市および社会を安全にするための技術のあり方を講述する。	
全学共通授業科目	総合教養科目	ものづくりと科学技術B	阪神淡路大震災は、あらためて日本の都市および社会が災害に弱い体質をもっていること、また地震などの災害に対してその被害防止に努めることの大切さを教えてくれた。地震への対応、火災防止や防犯なども視野に入れた生活環境の安全について、建築の立場から講述するとともに、都市および社会を安全にするための技術や計画のあり方を講述する。	
全学共通授業科目	総合教養科目	生命科学A	「生命機能とその異常(1)」をテーマとして、生命機能とその異常の根底にあるメカニズムに興味を持ち、多角的に生命機能についての基礎知識を勉強する。主に、生命の根源、身体を構成する物質、細胞間・細胞内での情報のやりとり、造血・免疫構築のしくみなどを学ぶ。	
全学共通授業科目	総合教養科目	生命科学B	「生命機能とその異常(2)」をテーマとして、生命機能とその異常の根底にあるメカニズムに興味を持ち多角的に生命機能についての基礎知識を勉強する。主に、耳・鼻・のどの仕組みと病気、口腔のしくみと役割、免疫系のしくみと役割について学ぶ。	

全学共通授業科目	総合教養科目	生物資源と農業A	食料・工芸・環境維持を支える植物資源の持続的生産を担う農林産業は人の生命と生活に必須である。世界の人口72億人余の食糧資源を安定的に供給するため、限られた農耕地において最大の生産をあげるための努力が払われている。本講義では、食料、工芸、木材の材料となる植物資源の特性と育種改良、また効率的生産を支える栽培技術、並びにグローバルな食料・環境問題などについて講義する。	
全学共通授業科目	総合教養科目	生物資源と農業B	食料・工芸・環境維持を支える植物資源の持続的生産を担う農林産業は人の生命と生活に必須である。世界の人口72億人余の食糧資源を安定的に供給するため、限られた農耕地において最大の生産をあげるための努力が払われている。本講義では、食料、工芸、木材の材料となる植物資源の特性と育種改良、また効率的生産を支える栽培技術、並びにグローバルな食料・環境問題などについて講義する。	
全学共通授業科目	総合教養科目	生物資源と農業C	有史以前から人類は、生活の糧として多様な生物資源 を利用し、改良を加えてきた。本授業では、農業上重要な昆虫及び微生物の資源について紹介し、農業とこれらをめぐる諸問題について複眼的視点から論考する。農業上重要な昆虫及び微生物の資源などと、これらをめぐる諸問題について多面的に理解する力を身につけることを目標とする。	
全学共通授業科目	総合教養科目	生物資源と農業D	有史以前から人類は、生活の糧として多様な生物資源 を利用し、改良を加えてきた。本授業では、農業上重要な資源植物や土壌環境などについて紹介し、農業とこれらをめぐる諸問題について複眼的視点から論考する。農業上重要な資源植物や土壌環境などと、これらをめぐる諸問題について多面的に理解する力を身につけることを目標とする。	
全学共通授業科目	総合教養科目	環境学入門A	様々な環境問題やそれに対する多様な解決法について、自然科学の立場から網羅的な理解を達成し、自分自身の考え方や創造的なアイデアを構築出来るようになることを目標とし、環境と生態系、環境と生命、環境と災害、環境と資源・エネルギーを学ぶ。	
全学共通授業科目	総合教養科目	環境学入門B	様々な環境問題やそれに対する多様な解決法について、人文・社会科学の立場から網羅的な理解を達成し、自分自身の考え方や創造的なアイデアを構築出来るようになることを目標とし、資源循環とバイオマス、環境と社会制度、企業における環境対応を学ぶ。	
全学共通授業科目	総合教養科目	社会と人権A	本講義では、社会における人権に関する歴史や課題について知識を深め、グローバル社会における人権について議論することを目的とする。身近な人権に関する課題に目を向けることで、どのような解決方策があるのかを考えていくことを目指す。	
全学共通授業科目	総合教養科目	社会と人権B	現代の日本社会における人権に関わる問題を社会的背景をふまえて検討することを通して、人権を保障することの意味とそこに現れた現代の日本社会の特質について考える。	
全学共通授業科目	総合教養科目	男女共同参画とジェンダー-A	ジェンダーの概念、性の平等および「男女共同参画」を理解し、さまざまな領域における課題についてジェンダー概念を通じて考察し、男女共同参画およびジェンダー平等についての理解を深め、個人的な問題は必ず社会的問題につながっているということを認識する。主に、教育学とジェンダー、法とジェンダー、経済・労働とジェンダーを取り扱う。	
全学共通授業科目	総合教養科目	男女共同参画とジェンダー-B	ジェンダーの概念、性の平等および「男女共同参画」を理解し、さまざまな領域における課題についてジェンダー概念を通じて考察し、男女共同参画およびジェンダー平等についての理解を深め、個人的な問題は必ず社会的問題につながっているということを認識する。主にジェンダーとセクシュアリティ、デートDV、倫理とジェンダーなどを取り扱う。	

全学共通授業科目目	総合教養科目目	グローバルリーダーシップ育成 基礎演習	本授業は、一般学生と留学生が神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画、立案、準備、運営を協働で行うことを通して、異文化間リテラシーを涵養することを目指す。多様な文化的・言語的背景、価値観を持つ者同士が協働することを通じ、社会の様々な事象を多様な視点から捉えなおす。	
全学共通授業科目目	総合教養科目目	EU基礎論	EUとは何か、EUの法的基盤とEU基本権、EU統合と国内政治の変容、市場・通貨統合とその成果、EU統合における文化摩擦と共生、EU統合と欧州議会・選挙、日EU関係とEUの行方など、EUの歴史、仕組み、経済、政治、安全保障、文化と社会など多様な側面に関する基礎的知識を理解する。	
全学共通授業科目目	総合教養科目目	国際協力の現状と課題A	国際協力の現状と課題を理解するために次の6つのテーマ：1、開発理論の基礎知識、2、国際協力のアプローチの変遷、3、「ミレニウム開発目標(MDGs)」と「持続可能な開発目標(SDGs)」、4、貧困削減、5、平和構築と復興支援、6、我が国の国際協力について講義する。	
全学共通授業科目目	総合教養科目目	国際協力の現状と課題B	国際協力の現状と課題を理解するために次の6つのテーマ：1.「悲劇の共有地」問題 2.環境の安全保障化 3.気候変動をめぐる世界政治 4.森林破壊/保護の政治経済学 5.核廃棄物を含む廃棄物問題 6.生物多様性、そして定常的開放系としてのガイアの危機について講義する。	
全学共通授業科目目	総合教養科目目	政治と社会	現代世界では、ヒト・モノ・カネ・情報が国境を超えて急速に行き交っている。国内政治と国際政治を互いに切り離しては、そのいずれも適切に理解することは難しい。また、国内社会、国際関係のいずれにおいても、政治と経済は相互に密接に関連している。国内政治と国際政治、政治と経済の相互作用に関わる現象に着目しつつ、冷戦後の国際関係について検討したい。	
全学共通授業科目目	総合教養科目目	社会生活と法	現代社会では法という枠組みによって社会生活が営まれている。本講義では「法とは何か？」という問題を出発点として、法学の基本的な考え方を学び、具体的な法をめぐる諸問題を取り扱いながら、社会生活と法との関わりについて考えていきたい。	
全学共通授業科目目	総合教養科目目	国家と法	学生はまず歴史的に国際法がどのようにできてきたのかをみることによって現代国際社会がどのような構造をしているのか、を理解する。その上で、国際社会で戦争・武力行使が法的にどのように考えられていたかを学ぶ。講義では、こうした社会人として当然知っているべき知識、持つべき教養を得るだけでなく、講義の中で書くレポートによって問題点を抽出し、それを論理的に説明できる能力を養う。国際法の基本原則および、国際社会の構造、国際社会の法と国内社会の法との違いを理解する。その上で16世紀から20世紀にかけて戦争に対する法的考え方がどのようにかわってきたかを学ぶ。さらに、第二次世界大戦後の国際社会の法と平和について国連憲章及び国連の実践から学ぶ。	
全学共通授業科目目	総合教養科目目	現代の経済A	本授業では、国際輸送を支える1つの重要なモードである航空輸送について講義する。すなわち、航空規制緩和と自由化、グローバル・アライアンス、低費用航空会社(LCC)、およびハブ空港競争等のテーマを取り上げた上で、最近の動向を紹介しながら、航空輸送の諸問題について理解する。航空輸送における現代的な諸問題について、歴史的、実証的、および政策的な側面から理解することを、主な到達目標とする。	
全学共通授業科目目	総合教養科目目	現代の経済B	本講義では大きく分けて2つの点から現代の経済について解説する。第一部では現在の日本経済の状況について講義し、第二部では開発経済学論に関する基礎的な理論、実証研究を解りやすく解説する。	

全学共通授業科目	総合教養科目	経済社会の発展	今日経済の世界化（グローバル化）が急速な勢いで進行していますが、現代社会に生きる私たちは誰であれ否応なくその影響にさらされています。この授業では、経済学的発想の基礎を理解していただくと同時に、時間的・歴史的側面を重視して、今日にいたる現実の経済社会の発展を、下記の四つのキーワードに即してお話いたします。経済社会を長期的な視野で理解する見方・考え方の基本を養っていただくことを目標にしています。	
全学共通授業科目	総合教養科目	地球史における生物の変遷	30億年以上にわたる生物進化の結果、現在、地球上には数千万種といわれる多様な生物が存在している。この授業では、生物多様性について学ぶとともに、現在みられる多様な生物がどのように誕生し、進化してきたかについて学ぶ。・生物多様性とはなにか、また生物多様性の重要性について説明することができる。	
全学共通授業科目	総合教養科目	生物の環境適応	地球上に生命が誕生して以来約40億年にわたる長い進化の過程を経て、生物は著しく多様化し、様々な機能を獲得してきた。現在、これらの生物は多様な生態系の中で、物理・化学的および生物的環境と相互作用し、それらに適応しながら生存している。この授業では、生物の進化とそれによってもたらされた多様性や機能について学び、多様な生物が様々な環境条件のもとでどのように生命活動を行っているかを理解するとともに、近年の地球規模の環境変動や侵略的外来種などの話題もとり上げて、生物と環境の関わり合いについて学ぶ。	
全学共通授業科目	総合教養科目	人間活動と地球生態系	人間は地球上の土地面積の約半分を改変し、水資源の半分以上を独占している。人間活動の結果、大気中のCO2濃度および環境中のチッソ濃度は2倍近くになり、温暖化などの気候変動、自然環境の汚染と劣化を招いている。地球上に暮らす多くの生物の中で、人間だけが地球環境に多大な影響を及ぼしている。この講義の目標は、受講者全員が、未来の地球環境を担う、責任感のある地球市民となることである。	
全学共通授業科目	総合教養科目	食と健康A	食品と微生物との関係、機能性のあるアミノ酸やタンパク質等、我々の「食の安全・安心」だけでなく「地球環境の保全」や「人類の幸福」につながってゆく事項について学ぶ。人の「健康」と密接に関係する「食」を科学的視点で捉えた「学問の発展」の成果の中から、我々が今後「持続可能な開発・発展」を進めていく上で重要な事項について幅広く理解を深めることを目標とする。	
全学共通授業科目	総合教養科目	食と健康B	遺伝子組み換え作物、動物性食品の機能性、ヒトに関わる微生物等、我々の「食の安全・安心」だけでなく「地球環境の保全」や「人類の幸福」につながってゆく事項について学ぶ。人の「健康」と密接に関係する「食」を科学的視点で捉えた「学問の発展」の成果の中から、我々が今後「持続可能な開発・発展」を進めていく上で重要な事項について幅広く理解を深めることを目標とする。	
全学共通授業科目	総合教養科目	資源・材料とエネルギー-A	概念としての元素と原子の違い、原子の性質を規定する電子配置の考え方、同族の典型元素がよく似た性質を持つ理由、遷移元素やランタノイド、アクチノイドのそれぞれがよく似た性質を示す理由、原子どうしが互いに結びつく形式を理解する。周期表を使いこなすための基本的知識を身につける。元素の発見とその社会に対する巨大な作用についても典型例を学ぶ。また、発見や命名の由来についても知識を増やす。	
全学共通授業科目	総合教養科目	資源・材料とエネルギー-B	電気エネルギーを中心とした各種エネルギー変換において利用される様々な無機材料の利用方法を理解し、それらの材料の機能発現の仕組みを理解する上で必要となる物質科学の基礎知識の修得を目指します。	
全学共通授業科目	総合教養科目	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	ESD基礎では、あらゆる人との関係づくりや学び合い（協働・共同・協同）を体験するとともに、頭と体と心をゆるめほぐすなかで、固定観念や思い込みを一旦学びすて、また構築することを繰り返す、「ゆらぎ」も体験してもらいます。ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。ESDが射程にいられている社会的課題を認識しつつ、出会いとアンラーン（学びほぐし）を通して、自身の認識装置を見直します。	